



例年になく猛暑が続いています。先日行われた9月の参観日には、多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。また、平生小ホームページ等を通じて授業評価もしていただくことができました。ご意見や感想をもとに、授業改善してまいります。

6年生のエプロン制作や1年生のアサガオのリースづくりでは、子どもの活動をサポートしていただきました。子どもたちは、お家の方とともに活動できてうれしそうでした。

さて、夏休み明けのお子様の様子はいかがだったでしょうか？これから最も長い78日間の2学期です。お子様の様子で気がかりなことやご心配がございましたら、遠慮なく早めに担任等へご連絡ください。よろしく願います。



ものづくり教室 ～コンテナガーデンづくり～



本日、のぞみ学級の1～4年生の子どもたちが自立活動の時間に、コンテナガーデンづくりを体験しました。

山口県室内園芸装飾技能士会より2名の山口マイスターをお招きし、一人1鉢の寄せ植えを学びました。子どもたちにとっては初めての寄せ植え体験でしたが、講師の方のお話をしっかりと聞きながら、鉢底石や培養土の入れ方や量、また7種類の植物の配置の仕方など、見よう見まねで上手に寄せ植えをすることができました。



40分程度の活動でしたが、子どもたちは出来上がった寄せ植えを見て、とても満足そうな表情を浮かべていました。早く持ち帰って、お父さんやお母さんに見せたい様子でした。よく頑張りましたね。



「子育てと木(こ)育てに共通点あり!？」 ～新庄BIG BOSSの父の名言～

3年前、日本ハムファイターズにビッグボスという型破りの新監督が登場し、開幕前からかなりの話題になりました。

ところが、その後2年連続の最下位…。

しかし、今期はエンジョイ新庄野球で若手の選手が順調に成長し、現在リーグで2位。監督就任3年目にして、初のクライマックスシリーズ進出が目の前に迫っています。

さて、私は以前、植木職人である新庄監督の父親の子育て方法について書かれた中島氏のコラムを目にしたことがあります。その中で、人や植物を育成する際の共通点が述べられており、「なるほど!」と思うことがありましたので、裏面で紹介させていただきます。

『ぶっ飛び！新庄ビッグボス ～父譲りの植木職人流強化術～』

中島 章隆（立教大講師）

「子育ては木育て」というサブタイトルのついた本がある。著者は福岡で造園業を営む新庄英敏さん。新庄BBの父親だ。息子が大リーグに挑戦した翌年の2002年、「大リーガー新庄剛志の育て方」（ゴマブックス刊）を上梓した。

若いころから運動神経が抜群だった英敏さん。小学6年で盲腸が悪化し、プロ野球選手の夢は断たれたというが、第2子で男の子が生まれると「よっしゃあ、これでプロ野球選手ができた!」と確信した。

プロ野球選手までの道のりは自分で敷く。高校を福岡市の自宅から遠く離れた八女市にある西日本短大付属に決めたのは、英敏さんだ。

「野球部は全寮制で、いい指導者がいるから」

実際は同短大に造園の学部があり、もし野球がダメになったら「新庄造園」の後を継がせようという親心もあった。

剛志が同高に入ると、英敏さんは片道1時間半の道のりをものともせず自分で車を運転、毎日欠かさず野球部の練習を見に行った。「ステージパパ」ならぬ「スタンドパパ」ぶりは尋常ではない。

植木職人として思うのは「子育てと木育てには、共通点がある」。どちらも辛抱と我慢が大事で、水や肥料は与えすぎるのは厳禁。「木が本当に欲しがっているときに、ちょっとだけ与えるのが良い」のだという。

「土壌」が親なら「肥料」は食事、「水」が愛情で、「太陽光」は周囲の環境。「剪定」は適切なしつけや注意に相当すると英敏さん。なかなかの名言ではないか。

息子がドラフト指名され、プロ野球選手になるまでの道筋はつけたが、その後は本人の意思を尊重したという。10年前、食道がんのため70歳で亡くなったが、息子がまさかの大リーガーにまで成長し、英敏さんの子育ては大成功だった。

沖縄・国頭で行われた日本ハムの秋季練習を視察した新庄BBは、全員にセーフティーバントの練習を課すなど、早くもチーム改造に意欲を見せた。新庄流スローガンを問われると「夢はでっかく、根は深く。土台をしっかりと作って、夢に向かって突き進んでいきたい」と植木職人の英敏さんを意識したのか、「木育て」になぞらえてチームの成長を誓った。